

公益財団法人 板橋区体育協会

中期マスタープラン

《 第 2 期 》

I 中期マスタープランについて

II 体協の中期ビジョン

III 事業の方向性

IV 中期事業計画

公益財団法人 板橋区体育協会

平成 23 年 10 月 19 日 第1期
平成 26 年 3 月 19 日 第2期

I 中期マスタープランについて〈意義〉

平成24年4月、体協は新公益法人制度に基づく公益財団法人に移行した。

新制度における公益財団法人は、法人の目的及び実施する公益目的事業を明確に設定し、公正かつ確実に実施していくことが社会的及び制度的に求められている。

中期マスタープランは、新制度移行を体協再出発の契機と捉え、多面的な視点に立って体協として区民のために「何をなすべきか」を明確にし、板橋区及び加盟団体と一体になって事業を推進していくための指針とするものである。

第2期計画期間は、26年度～30年度の5年間とし、前期3年間について極力、実現可能な範囲で事業計画を設定する。

II 体協の中期ビジョン〈展望〉

1 スポーツ文化を育てる

創立65年の歴史を持つ体協は、「スポーツは文化である」という理念のもと諸先輩の多大な尽力により体協独自の「スポーツ文化」を育て、有能な人材と、この人材が支える組織的財産を形成してきた。

体協としては、歴史が築いたこの財産を承継し、引続き「スポーツ文化」の更なる飛躍を目指すこととし、この目標を可能にするための土台を構築していく。

これを実現するため、組織づくりに際しては、引き続き全加盟団体の参画を基本に、事業に即した専門家の参画を拡げ、機能性と独創性を備えた専門組織体制(専門家集団)による事業の企画、実施に取り組む。

◎ スポーツ文化 …………… 人々の生きがい、生きる希望・喜び、愛着
・ 栄光、感動、友情、交流、貢献、親睦 etc

2 加盟団体とのチームワーク

新制度のもと、改めて公益財団法人として「体協はだれのためにあるのか」、という体協の基本スタンスについて共通認識を新たに作る。

体協として最も重きを置かなければならないことは不特定多数の区民の利益である。

したがって、区民参加によって組織されている各加盟団体とのチームワークをより強固なものとし、区民スポーツの輪を広げていくことこそ体協の根幹とする。

この認識のもと、引き続き加盟団体との連携を高めながら、「区民体育大会の充実化」に努める一方、「都民体育大会の強化」、「ロードレースの充実化」に重点的に取り組む。

さらに東日本大震災の影響で十分な活動ができない被災地の子供たちへの支援に取り組む団体に対して可能な範囲で支援していく。

◎ 重点事業選択の考え方

区民体育大会の充実化	……………	愛好者の拡大・区民スポーツの普及振興
都民体育大会の強化	……………	競技力の強化・アスリートの育成、支援
ロードレースの充実化	……………	愛好者ニーズに応える・地域の活性化

3 ジュニアスポーツの育成

ジュニアスポーツの担い手が学校教育の場から地域スポーツの場に移行している。しかし、指導者や活動場所及び資金など、全体として十分な環境が整っていない現状にある。

ジュニアの育成は、将来のアスリートを育てるだけでなく、スポーツ板橋を支える人材を育てる側面からも重要な課題である。

今後の明るい動向として、東京オリンピック招致が実現したことを受け、東京都及び都体協のジュニア育成への取り組みが継続もしくはレベルアップするものと考えられる。

この機会を捉え、体協としては、引続きジュニア育成に取り組んでいる加盟団体との連携を基本としながら、育成事業を通じて、長期的なスタンスで「指導者の育成」、「行政・教育分野との連携」、「安定財源の創出」など、将来的に持続可能な育成システムの構築に取り組む。

4 生涯スポーツの振興

成熟の時代に加え、超高齢化社会を歩む日本ではスポーツに対する価値観が多様化している。競技スポーツだけでなく、多くの人々がレクリエーションスポーツの分野に生きがいを求め活動している。

一方、板橋区では平成25年1月に総合計画「いたばし未来創造プラン」を策定し、この成長分野の1番目に「文化・スポーツによるにぎわいづくり」を掲げている。体協事業との直接的な関連はないが、区の活性化について初めてスポーツの有効性が取りあげられた。

区プランの実現に際してはスポーツ愛好者の拡大が不可欠である。体協としても専門家としてのノウハウを生かし、総合的に愛好者の拡大に取り組み区プラン実現に貢献していく。

これまで競技スポーツ主体に取り組んできた体協として、「新たなスポーツ文化」を育てるという発想のもと、多様な年代層が参加できる場所づくりとして、生涯スポーツ事業を拡充するとともに、レクリエーション団体の育成などにも可能な範囲で取り組む。

5 課題への取り組み

(1) 地域団体との連携

体協のロードレースと、高島平地域イベントは会場・交通等の関係から近接した日程で独自に開催されている。このため地元町会との接点が広がらないという側面がある。

今後は「地域に親しまれる大会づくり」、「地域の活性化」の観点から地元町会との連携方策を検討し、可能な範囲で試行していく必要がある。

地域と連携していくなかで安全対策上の改善方策が生まれる可能性も期待できる。

(2) 自立化の取り組み

体協の財政は、現在若干の繰越金(9百万強)があるものの、区補助金・賛助会費・賛助金・自販機事業収益(26年度廃止)に支えられかろうじて収支均衡を保っている状況にある。

事業の安定的継続を前提に、事業拡充に伴う経費の増加等を想定し、財政力の強化を図り「自立した体協」を目指すため、「事業の黒字化」及び「賛助会員・協賛企業の拡大」に取り組むとともに、「新たな収益事業」の展開方法を検討し、可能な範囲で実行していく必要がある。

(3) 障がい者スポーツへの理解

日本の障がい者スポーツへの支援環境は先進国に較べ立ち遅れているという指摘がある。

この課題について現在、体協が具体的な行動に移すことは難しいが、障がい者スポーツの現状について情報を共有し、少しでも理解を深めていくことが体協の姿勢として不可欠である。

例えば講習会・研修会等の場を活用し見識を高めることも有効な方策である。

(4) 競技愛好者の支援

区内には十分な組織力を持たないが熱心に競技活動を継続している多数の愛好者がいる。

一部愛好者の個人的な努力によって継続されている競技種目について、これまで体協として具体的支援を行ってこなかったが、「スポーツ愛好者の拡大」及び「都民体育大会の強化」という観点から、例えば準加盟制度を設けるなど、何らかの支援方策を講じていく必要がある。

Ⅲ 事業の方向性〈行動方針〉

1 スポーツ文化を育てる

(1) 専門組織の構築

全加盟団体の参画を基本に、専門組織による企画・実施体制を構築し、機能性と独創性を高める。(ロードレース、ハイキング、ジュニア育成)

(2) スポーツ文化の発信

・ 広報活動をスポーツ文化の発信拠点として位置づけ、広く区民に親しまれる体協をアピールするためホームページを刷新する。

・ ホームページの企画・運営・更新を一体的に所管する「専門委員会」を設置する。

2 加盟団体とのチームワーク

(1) 区民大会の充実化

ジュニア・シニア・ベテラン層を対象にした新種目の増設など、実施可能な団体への支援。

(2) 都民体育大会の強化

- ・スポーツ講習会・強化練習会への支援
- ・未参加競技種目への参加支援を行い、オール板橋で頂点を目指す。

(3) ロードレースの充実

- ・現状の周回コースの再検討など、全体的に見直しを行う。
- ・地域団体との連携方策を検討し、交流イベントにチャレンジ(試行)する。

3 ジュニアスポーツの育成

- ・育成事業への積極参加及び体協独自の育成システムの構築
ジュニア育成団体による連絡協議会を設立し、将来的に持続可能な育成システムを構築する。

4 生涯スポーツの振興

(1) 区民ハイキング事業の拡充

体協ハイキングは、充実した企画案と安全かつ信頼性のある運営が区民に評価されている。区民に親しまれる体協ハイキングを積極的にPRし、愛好者の拡大に取組む。

(2) 新たなスポーツ文化を育てる。

多種、多様なスポーツ・レクリエーション団体に対して連携と育成のあり方を研究・検討する。

IV 中期事業計画 (H26～H30 ・ 5カ年)

中期マスタープランを具体化するため、拡充・見直しを行う事業の内容と事業費の概算(3箇年)を可能な範囲で列記する。当計画は毎年度毎に見直しを行い年度計画に反映する。

1 競技会事業

拡 充 ・ 見 直 し す る 事 業

(1) 区民体育大会(共催・受託事業)

大会の充実

① ジュニア・シニア・ベテラン層種目の新設など参加者の拡大等に取り組む団体への支援。

② 新規加盟団体の発掘

単位・千円

	H25	H26	H27	H28	H29～H30
事業費	14,601	15,453	-	-	① ②
事業実績・計画	運営の見直し 大会の充実 31競技	① ② 大会の充実 32競技	① ② 大会の充実 〇〇競技	① ② 大会の充実 〇〇競技	① ② 大会の充実 〇〇競技

(2) 高島平・日刊スポーツロードレース(自主事業)

- ① 周回コース再検討など、全体的な見直し
- ② ロードレース事業部の新設
- ③ 協賛金の獲得等、収入の拡大
- ④ 地元交流イベントの実施(経費100千円)

単位・千円

	H25	H26	H27	H28	H29～H30
事業費	6,476	7,140	—	—	
事業実績・計画	①委員会設置 ③協賛金拡大	①委員会運営 ②ロードレース事業部の新設 ②協賛金拡大 ③試行検討	①委員会運営 ③協賛金拡大 ④試行検討	③協賛金拡大 ④事業実施 ※公認更新	③協賛金拡大 ④事業実施

継続する事業 競技会事業

- 板橋Cityマラソン(受託事業)
- 少年少女サッカー大会(受託事業)

2 講習会・研修会事業

拡充・見直しする事業

- ・ 研修及び教室等(自主事業)
都民体育大会の成績向上を目指すため、中級者スポーツ講習会の開催を支援する。
併せて、加盟団体の人材の育成に資するため、指導者及び審判員の育成講習会等を開催する
団体への支援の拡充。

単位・千円

	H25	H26	H27	H28	H29～H30
事業費	902	1,123	1,123	1,123	
事業実績・計画	12団体	15団体	15団体	15団体	15団体/年

継続する事業

- 青少年スポーツ指導者講習会(受託事業)
- 救急・救命講習会(自主事業)

3 普及・育成事業

拡充・見直しする事業

(1) 区民ハイキングの充実

- ①年間2回開催を継続し、内容の充実化を図る。
- ②ハイキング事業部の新設

単位・千円

	H25	H26	H27	H28	H29～H30
事業費	732	702	720	720	
事業実績・計画	2回開催 延80名参加	①2回開催 ②ハイキング事業部の新設	2回開催	2回開催	2回開催/年

(2) ジュニアスポーツの育成

①「ジュニア育成推進事業」(都体協助成事業)の継続

② ジュニア育成連絡協議会の発足

単位・千円

	H25	H26	H27	H28	H29～H30
事業費	4,507	4,709	4,710	4,710	
事業実績・計画	①事業継続 10団体	①事業継続	①事業継続 ②協議会設置	①事業継続 ②協議会運営	①事業継続 ②協議会運営

(3) 広報活動

①ホームページの刷新

②ホームページ専門委員会の設置・運営

③体育年鑑、体協ニュースの充実(ホームページへの移行検討)

単位・千円

	H25	H26	H27	H28	H29～H30
事業費	2,303	2,443	2,490	2,490	
事業実績・計画	①ホームページ刷新検討 ③年鑑、ニュースの充実	①ホームページ刷新 ②委員会設置 ③年鑑、ニュースの充実	②ホームページ運営(委員会) ③年鑑、ニュースの充実	②ホームページ運営(委員会) ③年鑑、ニュースの充実	②ホームページ運営(委員会) ③年鑑、ニュースの充実

継続する事業 普及・育成事業

水泳教室(受託事業)

シニアスポーツ振興事業(都体協助成事業)

スポーツ功労賞等表彰(自主事業)

加盟団体育成事業(自主事業)

賛助会員募集事業(自主事業)

4 交流・親睦事業

継続する事業

指導者交流研修会

体育協会総会・都民体育大会報告会

新年賀詞交歓会

周年事業活動

5 法人業務

各種会議開催(評議員会、理事会、運営会議、専門部会・委員会、代表委員会等)

《参考》 年度予算額推移

単位・千円

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
経常収益	43,867	49,022	52,918	52,107	53,674
経常費用	45,878	51,087	54,954	52,067	53,407
経常増・減	△ 2,011	△ 2,065	△ 2,036	40	267